

## 令和5年度第2回倉敷市スポーツ推進審議会 会議録

日 時 令和6年1月19日（金）10時～11時10分

会 場 倉敷市庁舎3階 議会第2会議室

出席者 委 員：松井会長、宮川副会長、畝木委員、生水委員、長尾委員、  
中野委員、野見委員、三宅委員、矢田貝委員

事 務 局：浅沼部長、古賀次長、岡課長、千代延課長代理、大嶋主幹、  
細田主事、荻野指導担当課長主幹（保健体育課）、  
藤原主任（障がい福祉課）

傍聴者 0名

### 1 開 会

開会あいさつ 倉敷市スポーツ推進審議会 会長 松井 守

### 2 報告事項

報告第1号 令和5年度市民モニターアンケートの結果について

#### 【事務局説明】

#### ・市民モニター制度について

市民モニター制度とは、市政や市民生活にかかる課題などについて、市からのアンケートに答える市民モニターを募集し、市民の声を市政に反映することを目的に実施されている。インターネットを活用し、簡単に、かつ素早く調査を行い、市民生活の向上に役立てるための制度である。

#### ・アンケート結果について

令和3年に策定した、「倉敷市スポーツ基本計画」において定めている、11の数値目標のうち、「スポーツ大会・イベントを観戦した人の割合」、「スポーツボランティアを行ったことがある人の割合」については、毎年度行う、市民モニター

アンケートの結果を用いることとしている。

基本計画の数値目標に関する事項として、問2「スポーツ観戦をした人の割合」は前年度の56.5%から62.6%と増加する結果となった。また、観戦方法については、ほぼ横ばいという結果となった。昨年の5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類となり、制限のないスポーツ大会やイベントが増加したことから、観戦する機会が増えたと考えられる。

問3「スポーツボランティアを行ったことがある」と回答した人の割合は、前年度の5.4%から6.4%とわずかに増加した。また、「どのような理由・きっかけがあればボランティアに参加したいと思いますか」との質問に対し、「時間に余裕がある」と回答した人が41.1%、「興味のあるスポーツに関わることができる」と回答した人が34.8%という結果となった。

スポーツ大会等については、令和4年度に比べ開催数は増えており、ボランティアを行う機会も増えてつあると思うが、時間に余裕がない方が依然として多く、ボランティアに割く時間が取れない現状がうかがえる。

#### 【出席者意見】

宮川副会長：ボランティアが集まりづらい現状について、コロナ前の状況に戻る見込みはあるか。

事務局：ボランティアだけでなく、スポーツ活動全般について、コロナ前の状況に戻るにはもう少し時間がかかると見込んでいる。スポーツ振興課が実施しているイベントの参加者も戻っていない現状がある。

松井会長：イベントをする際にボランティア募集は随時行っているのか。

事務局：随時行っている。

松井会長：他の市町で、ボランティアバンクのような仕組みを作っているところがあると聞いているが、倉敷市はそのような仕組みはあるのか。

事務局：他の課がどうか分かりかねるが、スポーツ振興課としてはそのような仕組みはない。

松井会長：昨年、岡山マラソンが実施されたときに、ボランティアの問い合わせが非常に多かった。コロナの影響で自粛していた方々のなかで、外へ出たいと思う方が増えてきているのではないかと思う。後ほど事務局から説明があるが、来年度は岡山で国民スポーツ大会冬季大会が開催される。岡山県としても、冬季スポーツの認知度を高めようとPRしており、多くのボランティアの力を借りることが必要である。また、岡山県では、高橋大輔選手や田中刑事選手、小松原選手などのオリンピックを輩出している。この大会の開催を契機に、子どもたちが冬季スポーツをやってみたいと思えるような相乗効果も生まれると思うので、先ほどのボランティア募集の仕方を様々な角度から工夫していただければありがたい。

宮川副会長：アンケートの結果で、ボランティアを実施した人が少ないが、スポーツに関わる人を増やそうとすると、する人や見る人よりも、のびしろがあるのはボランティアの部分だと思う。大きなスポーツイベントをきっかけにして、少しでもスポーツに関わる人口が増えればと思う。

長尾委員：先ほど、大会ごとにボランティアを募集されていると言われたが、どのような現状か。

事務局：前回まで依頼していたボランティア団体等に対して、同様にボランティアの依頼を行っているが、新しいボランティアが増えていない状況である。ボランティアはご高齢の方が多く、参加が難しいとの声も多くあった。以前は大学生や高校生のボランティアも参加していただいていたが、現在は集まりづらい状況である。

長尾委員：ボランティアとして増やさないといけないのはどの世代か。

事務局：若い世代や働く世代などである。現在のボランティアは全体的にご高齢になっていて、次の世代を育てないといけないという課題がある。働く世代などは特にボランティアに興味を持っていない人がいると思うので、まずは知ってもらえるように、周知していきたい。

長尾委員：毎年、ママさんバレーでツーデーマーチのボランティアに出ているが、

家族や友人に声をかけて募集している。

事務局：若い世代の方が広報くらしきなどをあまり見ないかもしれないので、もう少し発信の仕方を工夫して、倉敷スポーツナビなどを有効活用して、新しいボランティアを見つけることができるような方法を検討していく必要があると思う。

松井会長：宮川委員や長尾委員が言われたように、やはり選手を支えるボランティアにもスポーツの魅力を共有できると思うので、発信の仕方を考えていただいて、せっかくイベントを実施しているのだから、誰もが賛同しながら参集できるような形を作っていただければと思う。

生水委員：スポーツイベントでボランティアを集めるとしても、スポーツ振興課だけでやることは難しいと思う。市民公益活動のボランティアやNPOなどを所管している市民活動推進課との協力も必要である。また、トライアスロン大会では自治会連合会や商工会議所などの諸団体が協力して、盛り上げている一つの成功例だと思う。

松井会長：貴重なご意見だと思う。先日、日本スポーツ協会の理事会に出席した際に、遠藤会長がボランティアについて言及されていた。スポーツは素晴らしい魅力を持っているが、スポーツに携わってきた方以外の方が関わりを持つことが少なかった。経済同友会や各自治体にある商工会議所などでスポーツの推進という分野が今まではなかったが、もう少し視点を広げて、大きくとらえていくということを発言された。先ほど生水委員から発言があった、市民活動推進課や商工会議所などに発信すれば、ボランティアだけでなく、協賛金も集まるのではないかと思う。そういう点も踏まえ、様々な団体と連携しながら発信していただくことが必要だと思う。

宮川副会長：スポーツ振興は、健康づくりや仲間作りといった生活の質を高めることが目的となることもある。自分自身のQOLに良い影響を与えるという風に思えないとボランティアは増えない。依頼があったからボランテ

ィアをするとすると、今後の広がりはないように思う。支えることが自分にとって生活の質を上げることだと思われるような取り組みが必要だと思う。また、最近アイドルを推す若者が増えているが、それと少し通じるものがあり、自分がスポーツを応援することによって、満足感や存在意義を感じられるといった視点も必要なのではないかと思う。

### 3 議 事

議案第1号 令和5年倉敷市スポーツ章受章候補者の選考・推薦について

事務局から、資料を基に説明を行い、原案通り承認された。

#### 【事務局説明】

本市のスポーツに関する表彰制度は、出場した大会とその結果によって、複数の表彰があり、いずれも市長名で表彰される。このうち、「倉敷市スポーツ章」については、倉敷市スポーツ章規則第3条の規定に基づき、倉敷市スポーツ推進審議会が推薦した者から、被表彰者を定めることとなっている。

今回の審議会では、候補者を選考し、選考された候補者を倉敷市へ推薦していただいた後、受章者が決定されるという流れになる。表彰式については、令和6年2月8日（木）に、倉敷市役所10階大会議室で行う予定としている。

#### 【出席者意見】

松井会長：昨年より受章者は増えているのか。

事務局：スポーツ章だけでなく、栄誉章や奨励章も含めてかなり増えている。

野見委員：スポーツ章の受章候補者で非該当の方が4人いたが、この方たちに対しては、スポーツ章には該当しないが、他に健闘を称えるような賞などを検討してみてはどうか。

松井会長：貴重なご意見だと思う。事務局は当該推薦団体とのコミュニケーションを図られていると思うが、非該当理由などについては、整理して推薦団体に報告しているのか。

事務局：今回非該当となった方については、推薦された団体に対し、該当しない理由をお伝えする。この審議会では、スポーツ章についての選考・推薦を行うが、例えば他の大会で優秀な成績を収められ、基準に該当すれば、スポーツ奨励章（倉敷市スポーツ振興基金運営委員会が選考・推薦を行う）の受章者にもなりうる。

野見委員：この成績で受賞とならない場合は、例えば審議会会長賞などを検討してみてはどうか。モチベーションの維持にもつながるのではないかと思う。ぜひ、副次的な賞を検討していただきたい。

松井会長：スポーツ章規則は、それぞれ問題が生じたときに見直している。事務局で今回の意見を基に、改めて整理していただければと思う。

事務局：基準に漏れたからその人を表彰するというような形は難しいが、素晴らしい功績を収められた方が表彰されるように、整理する必要がある。春高バレーの優勝とねんりんピックで準優勝した人が同じ表彰となっているなど、今の基準とその成績などが釣り合っていないように見受けられるので、表彰基準の見直しを検討したい。

松井会長：社会状況も変化していく中で、実情に即した形で進めていただきたいと思う。

## 議案第2号 倉敷市のスポーツ振興に関する市民アンケート調査について

事務局から、資料を基に説明を行い、原案通り承認された。

### 【事務局説明】

市民アンケート調査は、令和3年に策定した、「倉敷市スポーツ基本計画」の見直しに向け、市民のスポーツ活動に対する現状やニーズ等を把握するため実施する。調査対象者は、5年前のアンケートと同様に、市内在住の15歳以上の市民3,000人とし、無作為に抽出した方へアンケートを送付する。前回からの変更点として、アンケート用紙の回収方法を郵送だけでなく、電子申請サービスでの回答も可能としている。実施期間については、現時点で2月22日から3月22日を予定

している。なお、事前にアンケート案についてご意見をいただいた内容について、事務局からの回答を資料に掲載している。

#### 【出席者意見】

宮川副会長：電子申請は、自由意見が入力できるような形になっているのか。

事務局：設問の最後に自由記述欄を設けている。紙のアンケートには自由記述欄は設けていないが、ご意見等があればスポーツ振興課までお寄せくださいと最後のページに記載している。

宮川副会長：電子申請は比較的処理しやすく、また、多くの意見を得られると思う。大学生へのアンケートでも、紙ベースからオンラインに変えると意見が一気に増えたので、ある程度参考になる意見が増えると思う。

## 4 その他

### ①（仮称）水島緑地福田公園屋内プール整備事業基本設計概要について

#### 【事務局説明】

（仮称）水島緑地福田公園屋内プール整備事業基本設計概要については、12月の倉敷市議会文化産業委員会において報告しており、今後も審議会で進捗状況を報告させていただく。

### ②第10回倉敷国際トライアスロン大会の結果について

#### 【事務局説明】

第10回倉敷国際トライアスロン大会は、令和5年9月10日に開催し、個人種目では、男女ともに大会新記録での優勝となった。また、事前の清掃と合わせ、大会期間中は約2,500人のボランティアにご協力いただき、当日は10,000人を超える観客の皆様にお越しいただいた。

### ③第37回瀬戸内倉敷ツデーマーチについて

#### 【事務局説明】

第37回瀬戸内倉敷ツデーマーチは、3月9日（土）、10日（日）の開催に向けて、現在準備を進めている。コースについては、例年どおり倉敷市役所を主会場に、1日目は市内の南方面を歩くコース、2日目は北・西方面を歩くコースを設けている。また、昨年度は定員を設け、事前申込のみとしていたが、今大会は通常通り、定員なしで当日受付を実施する。令和5年12月1日（金）から申込受付を開始しており、令和6年1月19日時点で、3,000人を超える方にお申込みいただいている。

### ④国民スポーツ大会冬季大会「晴れて輝け！おかやま国スポ」について

#### 【事務局説明】

開催まで約1年となった、「国民スポーツ大会冬季大会「晴れて輝け！おかやま国スポ」」については、令和7年1月26日から2月5日にかけて、ヘルスピア倉敷アイスアリーナ、岡山国際スケートリンクを会場に開催される。配布した資料は、昨年12月に決定した大会ポスターを印刷したもので、今後、県内の学校や公共の施設等への配布（ポスターサイズの物）を予定している。

### ⑤部活動の地域移行について

#### 【出席者意見】

松井会長：部活動の地域移行について、倉敷市の現状はどうか。

事務局：前回の会議の際に、昨年度実施したアンケートの結果を報告させていただいた。生徒と保護者に関しては、すぐに地域移行して欲しいという意見は少なく、反対に教員は早急に移行してほしいという意見が多い。実際には、個々の学校の状況や受皿の整備状況を踏まえると、倉敷市一斉に動くことは難しい。個別に校長から相談を受けることはある。

松井会長：日本のスポーツは学校の運動部活動に支えられてきた部分が大きい。部活動の地域移行は働き方改革の観点もあるが、地域と連携しながら、その地

域の特色を生かして、子どもたちを育成していく取り組みになっている。  
倉敷市としても避けて通れない課題だと思うので、委員の皆様からもそれぞれ  
の意見をいただき、子どもたちが疲弊しないように、取り組んでいき  
たいと思っている。

#### ⑥全国障害者スポーツ大会について

##### 【出席者意見】

松井会長：全国障害者スポーツ大会についての現状はどうなっているか。

事務局：令和2年度、3年度とコロナで大会が中止になったが、令和4年度で出場  
者21名、令和5年度については18名が倉敷市関係選手団として出場い  
ただいている。スポーツ基本計画とあわせて、障がい福祉課が策定してい  
る、障がい者基本計画、障がい福祉計画には、障がい者のスポーツの普及  
推進に取り組むこととしている。健康づくりや楽しむことに加え、家にこ  
もりがちな障がい者の方が、スポーツというツールを通じて、社会参加し  
ていただくこともスポーツの重要な役割の一つと考えている。大会への出  
場とあわせてスポーツの普及も、障がい福祉課として進めていきたい。

松井会長：是非ともよろしくお願ひしたい。障がい者スポーツの振興も中核市である  
倉敷市において積極的に取り組み、障がいをお持ちの方が競技だけではなく、  
社会に参画できるような体制づくりを進めていただきたい。

## 5 閉 会

閉会あいさつ 倉敷市スポーツ推進審議会 副会長 宮川 健